

* 今月号は私が担当しました。



営農経済渉外係長
木村 比呂志
〔豊里・八基地区担当〕

緑肥作物の有効活用について

この時期になると、ネギやブロッコリーなどの収穫が終わった圃場が多く見られます。次作の作物を栽培する前に地力を高めるため、緑肥の利用をおすすめします。

緑肥とは

古くから、レンゲソウに代表される緑肥は、植物の葉や茎などを枯らしたり、腐らせたりせずに、畑などの土壌に入れて耕し、肥料にするなど、様々な利用効果があります。堆肥のように運搬することができるとも特徴です。

緑肥作物の効果

①物理性の改善

- ・ 土壌の団粒構造の形成
- ・ 透水性の改善

②科学的性の改善

- ・ 塩類除去(クリーニングクロップ)
- ・ 保肥力の増大

③生物性の改善

- ・ 土壌微生物の多様性の改善
- ・ 土壌病害の抑制
- ・ 有害センチュウの抑制

④環境保全

- ・ 景観美化(遊休農地対策)
- ・ 表土飛出・飛砂防止
- ・ 雑草の発芽・定着抑制
- ・ 防風・耐倒伏性効果

緑肥を選ぶポイント

まず、農作物に合った緑肥を選ぶことが大切です。農作物も緑肥用の植物も様々な品種があるため、土壌環境や畑の状況に合わせて選定する必要があります(表)。

緑肥の使い方

播種

緑肥に利用する植物の種をまく場合、一般的な植物と同じように、手作業もしくは播種機を用いて行います。除草剤等を散布する際に使用する散粒機などを使うと、ムラなく短期間で播種できます。

播種後は、発芽や初期生育を安定させるために、覆土鎮圧を忘れずに行い、覆土の厚さは種子の種類によって変える必要があります。一般的には、種子の3〜5倍といわれていて、エンバクなどの比較

的大きな種子は、3〜5cm程度、ギニアグラスなどの小粒の種子では、軽くかき混ぜる程度の深さが目安です。

すき込み方法

広い圃場では、トラクターのロータリーですき込み方法が一般的です。ソルゴーなど草丈が高い植物の場合は、フレールモアなどでできるだけ細かく細断してから、すき込むことをおすすめします。

また、緑肥の分解を促すためにも、一度すき込んだ後、さらに2回ほどロータリーがけを行うと、きれいな播種床を作ることができ

すき込み時期のポイント

種ができる前にすき込むことが重要です。種ができてからすき込むと、再び緑肥が発芽してしまいます。

すき込み時の注意点

作業は余裕を持って行いましょう。すき込み後、すぐに次作の播種・定植を行うと、発芽・生育障害のもとになります。

また、岐根の発生を抑えるため、大根などの根菜類は深めにすき込みましょう。

なお、圃場の状態、すき込み時期で完熟時期が異なりますので、注意してください。

※緑肥は様々な種類があり、その

効用も異なるため、目的にあった緑肥を選ぶことが大切です。目的に合わせて緑肥を使い分け、良い品質の野菜を育てましょう。

表 代表的な緑肥

作物名	品種	播種期	効果	特記
エンバク	ハイオーツ	3月上～5月下旬 8月下～9月中旬	団粒構造の形成 保肥力の増大	根菜類・アブラナ科の根こぶ病抑制
ギニアグラス	ナツカゼ	5月下～8月上旬	センチュウ抑制 硬盤破碎	後作ブロッコリー
ハゼリソウ	アンジェリア	3月上～4月下旬 10月下～11月中旬	地力向上 景観美化	後作ネギ
チャガラシ	辛神	3月上～4月下旬 10月中～11月上旬	病害抑制 地力向上	ほうれん草萎凋病・トマト青枯れ病抑制

※他の緑肥等については、営農経済部 営農支援課、または、最寄りの営農経済センターにお問い合わせください。